

学校での不登校支援の多様化をどう進めるか

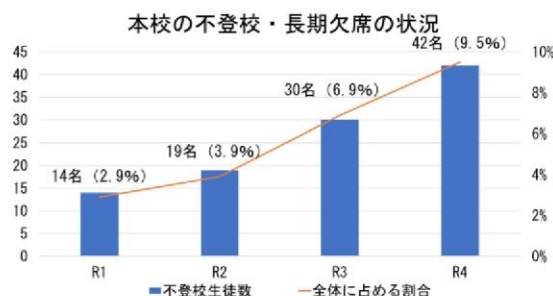
～校内フリースクール「サポートルーム」での実践から見てきたこと～



01 不登校の現状と本校の課題

不登校の増加を抑止し、多様なニーズに対応する学校運営

全国や全県の傾向と同様に、本校の不登校・長期欠席の生徒数は、年々増加傾向にあります。しかし、これまでのような学校の在り方では、不登校の増加を抑止することや、多様なニーズに対応していくことが困難でした。不登校支援の多様化をどのように進めるかが喫緊の課題です。



02 校内フリースクール「サポートルーム」の開設

教室らしくない環境で、子どもたちが安心・安全に生活できる学び場の保障



キーワードは、

- 1 教室らしくない部屋
- 2 安心・安全な居場所、緩衝材
- 3 教室への復帰が前提ではなく社会的な自立を目指す
- 4 多様な学びの機会、自己実現の場



03 成果

子どもたちの前向きな変化 = 教師の前向きな変化

サポートルームは、子どもたちにとって安心・安全な居場所となり、とても前向きな変化が見られます。その背景には、教師の前向きな変化がありました。学校全体で、子どもたちの多様性に寄り添う雰囲気が高まっています。

利用する
子どもたちの

声

この部屋では気持ちが楽で安心して過ごせる。

教室では、いろんな人に見られているようで緊張する。今は**気持ちが楽**。

無理していろんなことをしなくてもいいから**楽な気持ち**で過ごせる。

04 今後の展望

持続可能な運営のための仕組みづくり ポイントはTPP

Time(時間)・Place(場所)・Person(人)のマネジメントを工夫し、持続可能な運営方法を模索していきます。

Time

(時間)

自分が来やすい時間に登校できる

Place

(場所)

他人の目を気にせずに登校できる

Person

(人)

受け入れやつなぎ役の職員を配置

学校間でのコミュニティの輪を広げていきたいと思っています。お気軽に学校までご連絡ください。